

平成20年度 県立並木高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1. 「つくば」とともに、「つくば」がもつ使命（ミッション）を共有した、未来を切り拓く人材を育成する学校。 2. 生徒一人ひとりを大切にするとともに、地域に信頼され、生徒に力（「社会力」「学力」「体力」）と夢を提供する学校。 3. 中等教育学校への移行がスムーズに進む学校。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
未来を切り拓く人材を育成する学校をめざし、また、地域に信頼され夢を提供する学校をめざして、生徒一人一人を大切にすることを実践することができた。また中等教育学校開校にむけ全職員が一丸となり事業を推進した。一方、年々生徒の資質が多様化しつつある現在、生徒理解を一層深め個々の生徒に対応できる「魅力ある進学校」として、さらに「つくば」がもつ使命（ミッション）を共有した学校としての新たな取り組みが必要とされている。	意欲ある学校風土の醸成	①人間として恥じることのない、知識を操作するための、人間力を培う教育 ②チャイムからチャイムまでの授業とシラバスを使った効果的な学習 ③意識改革 ア 地域との連携 イ 過去のトレンドの払拭、未来のトレンドを読む力の育成 ウ 教育情報ネットワーク機能を利用した迅速な情報伝達	B	
	進路希望の実現、特に将来の夢を語れる生徒の育成	④個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ⑤多様な進路情報の提供（学校・学年発行のメールマガジン等の充実） ⑥職業観・勤労観の育成	A	
	すこやかな心と体の育成	⑦基本的な生活習慣の確立 ⑧生徒会活動、学校行事等への一般生徒の参加意識を高揚 ⑨安全教育を推進…自己防衛意識と自己管理能力を高める指導	A	
	中等教育学校へのスムーズな移行	⑩全職員の共通理解と校内体制の充実 ⑪広報活動の充実 ⑫小学生とその保護者等への説明会の実施	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 教務部	「つくば」がもつ使命（ミッション）を全職員が共有し、「並木高校有終の美5カ年計画」（仮称）の1年目として、さらなる生徒の学力向上をめざす。	生徒にわかりやすい（徹底しやすい）シラバスを作り、シラバスを参考にした学習計画の立案を促すことで、生徒の自主的な学習態度を育成する。	B	・授業の工夫・改善のための職員研修、授業公開の機会を多くとるようにする。 ・大学入試という一点で職員が協働できる体制づくり。 ・シラバスをより実践的に利用するための方策。 ・中等教育学校移行にともなう組織の複雑化の中でいかに連携強化を図るか。
		50分授業の展開を再構築し、多様化した生徒に対応した授業（分かる授業・参加する授業・楽しい授業・実力がつく授業）の工夫改善を図る。	A	
		公開授業の奨励、積極的な職員研修（先進校視察等）、情報の交換・共有化を促す。	B	
	授業時間の確保と教務情報の提供に努める。	各教科間や、学年内の連携を強化し、授業交換を徹底させ、補填授業を充実させる。	A	
		チャイムからチャイムまでの授業の徹底を図る。	A	
		インターラクティブボード（情報表示装置）を有効に利用し教務情報を提供する。	B	
	中等教育学校への移行も念頭におき、校内体制の見直しを図る。	学校評価システムを確立させる。	B	
		各部・各教科・各学年の連携強化に努める。	B	
	中等教育学校との連携を強化し、移行がスムーズに推進するように校内体制の見直しを図る。	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
2 生徒指導部	基本的生活習慣を育成し、他人との協調性を養い自己実現を目指す。	全職員の共通指導	B	○服装指導において生徒会と連携をとりあって生徒の自主性を促したい。	
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るようにする。	B		
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成	B		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力	A		A
		中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力	A		
		生徒事故の未然防止	A		
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導の実施	A		A
		交通安全教育の徹底	B		
		自転車点検の実施	A		
3 特別活動部	部活動の活発化	中等教育学校の生徒も含めた部活動のよりよい活動方法を模索する。	B	・部顧問の適切な配置をはかり、学校全体で指導できる部活動を作りたい。 ・中等教育学校生と高校生の一団感を味わえる行事を考えた	
		部活動における効率的な練習を推進し、県大会に出場する部を増やす。	A		
		部顧問間の連携を強化し、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		A
		中等教育学校の生徒も含めた新しい生徒会活動のあり方を模索する。	A		
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	A		
	学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		A
		中等教育学校と高等学校が一体化したかえで祭を作り出す。	A		
		スポーツデイにおけるクラスの団結力を高め、協調的精神を養う。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
4 進路指導部	適切な進路情報を提供し 進路意識の高揚を図る	進路室の整備と利用促進	A	・進路室の使いやすさの更なる増進 ・学年進路担当とのつながりを密にし情報のスムーズな流れを作る。 ・進路指導充実のための情報提供
		進学要覧の活用（HRでの使用と保護者への進路情報の提供）	A	
		保護者面談時等を利用し、定期的な進路情報の提供	A	
	進路計画の作成	LHRを活用した進路指導（各学年での到達目標を設定する）	B	
		進路・生活実態調査を定期的に行い、生徒のその時点での状況を提供する	A	
		進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むよう情報を提供する	A	
	自己実現のための支援	早期に目標を見つけることが出来るように、進路ガイダンス等の充実を図る	A	
		模試の情報収集と結果の活用	B	
		学年との協力体制の確立	B	
5 保健部	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う	A	(1) 学校保健計画の更なる検討。 (2) 日常的保健室利用者に対する対応の検討 (3) SHRでの日常的な学年行事と清掃監督者との時間調整の検討
		健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する	B	
		日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる	B	
		校内の各組織と相談・連携し、喫煙・性・薬物等の講話を年1回は実施する	A	
		担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する	B	
		委員会活動の活性化を図る	B	
	校舎内の美化と安全に努める	清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう	B	
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する	B	
		避難訓練を実施する	A	
6 図書部	1 図書委員会の活発化	ローテーションによるカウンター業務（バーコードによる貸出と返却）	A	・蔵書と設備の充実 ・学校図書館活用教育の推進 ・図書館報の記事の充実
		購入図書を選定と広報活動（「図書館報」の発行）	B	
		定例役員会の開催	B	
	2 図書館運営と図書の管理	購入図書の登録（バーコード入力）	A	
		定期点検による図書の整理整頓	B	
		図書館設備の充実	B	

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
7 渉外部	P T A活動の共通理解と 会員同士の親睦	P T A活動表・支部区分表の配付	B	P T A役員を選出の し方 P T A支部会の開催 のし方
		学年・評議員の活動内容表の配付	B	
		かえで祭・WRへの参加協力の呼びかけ	A	
		広報誌の発行	A	
		支部会の開催	A	
		P T A連合会などへの参加	A	
8 教育情 報部	授業における IT 活用	校内研修会の実施	A	・研修内容に関し、 情報モラルやセキュ リティについてより 一層の充実をはかる。 ・各学年・分掌単位 の共有フォルダをお いて分掌毎の情報資 源共有をはかる。 ・継続してハード・ソ フトの充実を図りそ れを啓蒙していく。 ・本校サイトの充実 のため特別活動部等 他の分掌との連携を より一層深くする。 ・中等生の利用拡充 に込められるように 環境整備を継続して 行う。
		環境の整備（普通教室、視聴覚教室）	A	
		e-Learning（ネットワークを利用した自学自習環境）の活用	C	
		教科「情報」と他教科の連携	A	
	IT 環境を活用した校務の 効率化	IT 活用のための機器の導入と利用普及	A	
		校内サーバーの活用	A	
		教育情報ネットワークの活用促進	A	
		成績管理システムの改善	A	
	IT 及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備	A	
		校内ネットワーク（LAN）の整備	A	
		ソフトウェアの整備	A	
		視聴覚室の整備（視聴覚機器など）	C	
	IT 環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用	A	
		セキュリティの向上と迅速な対応	A	
		個人情報保護	A	
		情報倫理の確立	A	
IT を活用した地域や保護 者への広報活動の充実	インターネット・ブログでの学校紹介の充実	A		
	メールマガジンを活用した保護者への広報活動	A		
中等教育学校の環境整備	中等教育学校の IT 環境の整備拡充	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
9 教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒を把握する	B	B	
		週に1度の部会を持ち、情報交換を密にし、チーム支援の充実を図る	A		
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する	B		
	学年・保護者との連携強化	相談部の中に学年担当を決め、学年会の生徒動向の情報を共有する	A	A	
		生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする	A		
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする	A		
スクールカウンセラー(S C)の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する	A	A		
	カウンセリングにおいて、S Cと担任等との連絡調整を支援する	A			
10 事務部	効率的な予算の執行に努める	将来を見通した教育環境の整備	B	B	施設設備の充実を図り、本校教育の更なる発展に努める。
		安全性を考慮した校舎内外の整備	B		
		最小費用で最大の効果	B		
	授業料等の口座振替不能者減少に努める	生徒を通して、引落金額の通知を配布して、保護者の周知を求める		A	
	団体費の適正な予算執行に努める	収入・支出の内容を明確にする	B	B	
領収関係書類を確実に添付する		B			
窓口業務・電話の応対等の接遇態度に心がける	窓口業務をする中で、常に不審者対策にも心掛ける		B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てる(生活指導)⇒校訓にもある「自制(自分勝手な気持ちを抑えること)・自律(自分に厳しくあること)・自尊(自分にプライドを持つこと)」の精神を身につける	教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気づくりの徹底	A	A ・1学年として年間を通して生徒が登校しやすい雰囲気づくりができたことなどの点は評価できる。今後は生徒の服装、不登校ぎみの生徒への対応などの面において課題が見られるので継続的に指導していきたい。
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底による遅刻の削減	A	
		校内や登下校時における挨拶の奨励	B	
		朝の立哨指導により挨拶・服装指導の徹底	B	
		生徒の状況を観察するため主任面談など面談の実施による問題行動の早期発見	A	
	「総合的な学力」と、「社会力」「体力」をバランスよく身につけた生徒を育てる(学習指導)⇒日々の授業を大切にし、日々の家庭学習の習慣を身につけた生徒を育てる	学年集会・道徳などを通じて並木高校生としてプライドを持たせる	A	A ・学年全体としては素直で真面目な生徒が多い点を生かし、今後は個々の生徒の個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育て、地域の評価をもっと高めるように学年全体で指導していきたい。
		週間家庭学習記録表の提出による家庭学習の習慣化	A	
		国数英週末課題の計画による家庭学習の習慣化	A	
		定期テスト前セルフスタディー TIME 実施による自学自習力の育成	B	
		土曜学習会の活用による授業時間の確保と学力向上	A	
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す	A	
		小論文の有効な指導計画を実施する	B	
	英数国の上位層を伸ばし、下位層に対するケアの充実	A		
	自分自身を理解した上で、目標に向かって努力できる生徒を育てる(進路指導)⇒自分の目標を持ち、自分の長所を理解することで、将来への夢に向かって突き進む	自分史や適性検査の実施による自己理解の促進	B	A ・今後は文理混合クラスの設置、修学旅行などにおいて学年として新しい試みにチャレンジするので適切な指導をしていきたい。また、
		進路講演会等による進路意識の覚醒	A	
		大学訪問・校外学習等による進路意識の高揚	A	
マイフューチャーの実施による社会観・職業観の育成		A		
(その他) 充実した高校生活を送らせる	面談等を活用して生徒の適切な文理選択をサポートする	A	B 学年としては中等との連携を密にして学校全体を良い方向へ向かわせたい。	
	部活動への参加の推進	C		
	生徒会活動への参加の推進	B		
	学校行事への積極的参加を促進	B		
		中等教育学校と連携した教育活動に対する協力体制の確立	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
1 2 第2学年	学習習慣の確立・向上(学習指導) ⇒ 1年からの学習指導を継続し、授業と家庭学習の質と量を向上させるとともに、自ら学ぶ姿勢を育てる	週間家庭学習記録表の提出による家庭学習の習慣化	B	A	・1年生からの学習指導の継続により、調査結果等では過年度学年に比べて勉強時間等が多い。しかし、模擬試験の結果等を見てみるとまだまだ厳しい状況にある。これから卒業学年に向けさらなる指導が必要と思われる。 ・進路意識に関しては、ほとんどの生徒は自分の進路目標に向けて動き出している。 ・修学旅行の事前指導・事後指導を通して、様々な学ぶ機会を設けた結果、修学旅行に対する学習意識を喚起することに成功した。 ・ルール遵守に関しては、1年次よりは意識が下がってきたため引き続き指導が必要。	
		国数英週末課題の計画による家庭学習の習慣化	B			
		定期テスト前セルフスタディー TIME 実施による自学自習力の育成	A			
		土曜学集会の活用による授業時間の確保	A			
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す	A			
		英検全員受験により英語力向上を目指す	A			
	小論文の有効な指導計画を実施する	A				
	自らの進路についてのより深い研究 (進路指導) ⇒ 大学や職業についてより深く研究し生徒自らが考え選択できるようにする	進路講演会等による進路意識の覚醒	A			A
		大学模擬講義実施による学部学科研究の促進	A			
		オープンキャンパス全員参加による大学研究の促進	A			
	修学旅行の成功(全体的な指導) ⇒ 修学旅行を利用して学習意識を喚起するとともに、集団としてのルールの大切さを十分に理解させ、仲間	マイフューチャー実施による社会観・職業観の育成	A			A
		「志望理由書」作成指導により進路意識と目的意識を高める	B			
HRや学年便りを利用しての入試システムの理解		A				
修学旅行に関連させた授業内容の実施し学習意識を喚起する		A				
修学旅行事前研究を実施し自ら学ぶ姿勢と発表能力の育成		A				
伊江島の人々とのふれあいを通じコミュニケーション能力の育成を図る	A					
遅刻指導等により時間への意識を高める	A					
服装頭髪指導の継続によりルールを遵守させる	A					

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3学年	学力の向上及び進路目標に応じた積極的な学習活動	1時間1時間の授業を大切にする(分かる授業の展開・チャイム始業の徹底・家庭学習の徹底を図る)	A	A	・数値目標の結果は厳粛に受け止めざるを得ないが、各教科共ベストを尽くした取り組みをした。 ・進路に関しての取り組みをいかに早期に行わせることが出来るかが課題として残った。 ・ブライトホールや教室での放課後学習だけでなく、家庭での学習習慣をいかにつけるかが課題となった。 ・「遅刻カード」の導入は遅刻指導として有効であった。
		習熟度に応じた学習指導体制の確立	A		
		学力向上のための平常課外・夏季課外・冬季課外・小テスト等の実施	B		
		小論文指導等により、読解力・文章表現力の養成	A		
	生徒自らが自分の在り方・生き方を考えながら進路選択できる進路指導の実現	個々の進路に応じた綿密な面談の実施	A	A	
		「自ら学べる生徒になる」ための進路講演会の実施	B		
		進路先を比較検討するための「校外進路説明会」の実施やオープンキャンパスへの参加	A		
		ロングホームルーム等を利用した入試システムの研究	A		
	基本的な生活習慣を確立し、高校生らしい礼儀を身につける	「遅刻カード」を利用した遅刻指導の徹底	A	A	
		朝の立哨指導の実施	A		
		頭髪・服装指導の徹底	B		
		挨拶の奨励	A		
	最高学年として、部活動や生徒会行事・学校行事への積極的な参加を促す	部活動・生徒会活動への参加の推進	B	B	
活動を通して、リーダー性・協調性・社会性等を高めていく		A			
学校行事への本部役員参加率の向上		B			
家庭との密なる連携・協力体制の確立	家庭との連絡を密にして、生徒の動向に気を配る	A	A		
	学校になかなか登校できない生徒に対して、家庭と十分に連絡を取り、教育相談部等と協力しながら指導していく	A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
14 国語科	自発的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、予習・復習の仕方・週末課題について細かに指導する	A	B	教科全体で問題や情報を共有する 中等生への指導研修 および中高間の連携強化 3年間を見通した指導計画の確立 問題演習のさせ方を工夫
		シラバスにより単元目標を提示し、それに合わせた授業・評価の工夫をする	B		
		生徒が学習しやすいように問題演習の行い方を工夫する	B		
	読解指導の深化	小説・評論の読解法について解説し、実際に使えるようにする	B	B	
		古文の読解のポイントについて解説し、授業で実践する	A		
	記述入試対応	設問に応じた答え方ができるよう、板上添削など授業の工夫をする	B	B	
記述対策を早期に開始し、生徒の苦手意識を解消する		B			
教員間の意見交換を積極的に行う場の確保	授業公開などを利用して、お互いの授業の改善を図る。	C	B		
	授業担当者間において、綿密な打ち合わせができるように意見交換の場を確保する。	A			
15 地歴公民科	シラバスの有効利用	年間目標を提示し、生徒自らが学習計画を立てられるように手助けする。	A	A	・今年度以上に生徒自らが学習計画を立てられるよう、自分に見合った学習方法を選択できるよう手助けをしたい。 ・ITを活用した指導法の研究・今年度以上に課外の充実と、小テストの精選
		さまざまな学習方法を提示し、生徒が自分あった方法を選択できるように導いていく。	A		
	ITを活用した授業の実施	ITを活用した指導法についての研修会を実施し、実際に授業を行う。	B	B	
		有効活用できるソフトの作成。	B		
	学力向上及び指導方法の工夫	長期休業中及び平常の課外を充実させ、精選した小テストの実施。	A	A	
		生徒一人一人の可能性を伸ばせるような指導方法の研究。	A		
16 数学科	基礎・基本の定着と共に応用力の養成を図る指導	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	基礎・基本の定着と同時に、成績上位者の応用力の養成を図る指導の充実 年間を通して予習・復習が習慣化するよう課題等を工夫し、継続的に指導する。
		週末課題の提出を徹底させ、繰り返し復習することで、基礎・基本を全員に定着させる。	A		
		難易度別の課外授業や、個別指導により、発展的内容に挑戦しようとする生徒を育てる。	B		
	学習意欲を喚起する指導	家庭学習における予習の習慣化と、教科書を中心とした学習の重要性を認識させる。	B	A	
		上位者の掲示や適切な出題難易度により、到達度テストに向けての自主的な学習を促す。	A		
		定期テストや模擬試験に向けて各自の目標を設定させ、積極的に取り組ませる。	A		
	個に応じた指導	習熟度別クラス編成により、生徒の理解度に応じた授業展開や問題演習を行う。	A	A	
		普段の授業やテスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。	A		
希望者への早朝・放課後・長期休業中の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。		A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できて

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
17 理科	生徒が自ら学習するよう な指導	定期テストや模擬試験に向けて目標を設定し、積極的に取り組む姿勢を育成する。	A	周辺の研究機関との 連携を一層はかり、 つくばという地の利 を活かした最先端科 学を体験できる授業 の実践	
		学習プリントや副教材により家庭学習における予習の習慣化を図る。	A		
		シラバスを基に学習計画をつくり、生徒が自ら予習・復習するよう指導に努める。	B		
	学力向上	実験化や観察を多く取り入れ、分かる授業の工夫と展開を心がける。	A		
		担当者間で意見交換を行い、互いの授業の改善を図る。	B		
		生徒の実態に即した課題を出し、家庭学習の習慣化を図れるようにする。	A		
	個に応じた指導	授業や定期テスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。	A		A
		小テストや学習プリントなどにより到達度の確認を図る。	A		
		習熟度別指導など理解度の違いに応じた個別指導を行う。	A		
		希望者には放課後・長期休業中の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。	A		
18 保健体 育科	体力の保持増進	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成	A	B	
		体づくり運動、特に筋力向上プログラムの効果的な実践	C		
		12分間走の充実	A		
	運動技能知識の理解及び 修得	技能知識の理解	A	A	
		運動技能の修得	A		
		ルールの理解	A		
	スポーツマンシップの育 成	規律ある行動	B	A	
		あいさつの励行	A		
		マナー、ルールの遵守	A		
	保健学習の充実	現代社会と健康の理解	B	B	
		生涯を通じる健康の理解	B		
		社会生活と健康の理解	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できて

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
1 9 芸術科 音楽	芸術的表現技術の向上	基礎的技能を身につけ、自己の考えを練り思考する過程を重視する	A	A	「わかった」から 「できた」への授業 展開をさらに研修工 夫する。	
		様々な表現手段を提示し、各自の表現に合った技術を習得させる	B			
	鑑賞教育の充実をはかる 心の教育を目指す	音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ちイメージできるようにする	A			A
		幅広く音楽文化の表現を理解し尊重する心情を育てる 美しいものへの感動を通して自己を高める	A A			
1 9 芸術科 美術	芸術的表現技術の向上	自己の考えを練り、思考する過程を重視する	A	A	時間がかかる教材が 多いので、内容を精 選して一層の充実を はかる。	
		様々な表現手段を示し、各自の表現に合った技術を習得させる	A			
	鑑賞教育の充実をはかる	様々な分野の鑑賞資料を提示する	A			A
		インターネット等を活用し、主体的に鑑賞にかかわるよう指導する 文化の理解から、国際理解人間理解へと発展させる	A B			
	心の教育を目指す	表現を通じて、自己の内面との対峙を目指す	A			A
		美しいものへの感動を通して自己を高める	A			
2 0 英語科	将来につながる 基礎学力の定着と 個に応じた指導	生徒に予習→授業→復習の流れを確立させ、教科書を中心とした基礎・基本の徹底を図る。	B	B	1.個々の生徒への適 切な助言や課題の提 示。その後の進捗状 況の把握。	
		小テストを実施し、結果を分析し、理解不十分であった生徒への対応を行う。	A			
		生徒のレベル毎に応じた課題の提示、進捗状況の確認、助言を行い、継続させる。	B			
	自律的な学習を 身につけさせる 指導の工夫	LL 教室を活用し、生徒の興味を異文化・異言語に広げる授業を行う。	A	A	2.生徒への教師に対 する積極的な質問の 奨励。	
		IT, 書籍, 新聞, TV の語学講座等各種メディアを活用した生徒の自主的な英語学習を奨励する。 各種英語検定試験, ALT との交流, 教師への質問を積極的に促し生徒が自ら学ぶ姿勢を養成する。	A B			
	教員間の意見交換を 積極的に行う場の確保	よりよい教授法を求めて、意見交換を行い、連絡を密にして、お互いの授業の改善を図る。	B	B	3.相互の授業参観、 情報共有の実施。	
		外部の研修会へ積極的に参加し、校内での報告会を行い、情報の共有に努める。	B			
		各学年の取組みを報告書にまとめ全体での意見交換の場を設けてよりよい方法を模索する。	B			

評価基準 達成状況 A : 十分達成できている B : 達成できている C : 概ね達成できている D : 不十分である E : できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
21 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の知的好奇心を喚起するような学習課題の設定と実践をはかる。 実験・実習を効果的に取り入れる。 学んだことを実生活に生かせるような機会を増やす。
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする	C		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する	B		
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する	B	B	
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する	B		
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る	B		
	生活の場での実践力の育成	ホームプロジェクトを実施し、課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける	B	B	
		家庭クラブ活動や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる	B		
		生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する	B		
22 情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する	A	A	<p>学校全体と授業との関わりを常に意識する。</p> <p>常に新しいことを教材に取り入れながら授業を行う。</p> <p>最近とりざたされているネット社会での問題を鑑みて、生徒がネットワーク社会の一員としてのモラルを身につけることを重点的に行っていきたい。</p>
		情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う	A		
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う	A		
		基本的な用語や概念については、試験を実施することによって定着させる	A		
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う	B	B	
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する	B		
		人と人との関係性を重視した指導を行う	A		
	他教科や中等教育学校との連携	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする	A	A	
		学校行事とリンクした実習を取り入れる	A		
他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる		A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	学年	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
総合的な学習の時間	23年	道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養うことを目的とする。また、計画的、発展的な指導によって道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。	テーマを設定し、学年集会形式によって学年主任をはじめとして学年全体による指導を通じて道徳的価値観を身につけさせる。	A	A	・道徳において活用できる実践例を充実させるなど授業の環境を整えると同時に、授業の質を向上させるためによりよい研修会の開催が課題である。
			HR 単位において担任、副担の指導の下で道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養い、道徳的実践力を育成する。	B		
			社会人による職業講話（マイフューチャーセミナー）を設定し、良き社会人を目指させる。	A		
			校外学習等を計画し、自己を見つめ将来に対する展望と価値観を育成する。	A		
	2年	「進路学」及び「沖縄学」 ①大学や職業についてより深く研究し、生徒自らが自分の在り方・生き方を考え、目標を見据ながら進路選択できる力を育む ②沖縄修学旅行の事前事後指導を利用してあらゆる角度から学習意識を喚起する	進路講演会等により、自分の学習状況や将来の計画について考えを深めさせる。	A	A	・今年度培った進路選択力を生かし来年度の進路実現へ向けて指導したい。 ・沖縄修学旅行の事前事後指導を通して喚起できた総合的学習力を次学年での学習に生かしていきたい。
			大学模擬講座等を通して、自分の進路選択について考えを深めさせる。	A		
			キャンパス見学会等に参加することにより、自ら情報を収集・分析し計画を立てて行動する力を育て、併せて将来の進路について考えを深めさせる。	A		
			小論文指導を通して自らの進路について深く考えさせる。	A		
			色々な教科との協力により沖縄についての興味関心を高める。	A		
			各自に研究テーマを決めさせ、情報の授業と協力しながら、クラス発表・学年での全体発表を行わせる。	A		
	修学旅行後に記録集を作成させ、「沖縄学」の総括とする。	A				
	3年	「知を総合化し応用する」 ①自分の進路や職業について深く考えさせ、生き甲斐のある人生を実現しようとする意欲を促す。 ②現代社会についての多面的な学習を通して、生徒に力(社会力)をつけていく。	興味関心を発展させた教科(科目)研究を通して、個人の知識を伸ばしたり、思考力を鍛え上級学校に対応できるように育成する。	A	A	・教科研究を通し、上級学校に対応できる思考力を鍛えることが出来た。 ・小論文の指導に関しては、教員全体で指導できる体制を作ることが課題である。
校外進路説明会を実施。志望校を比較・検討することによって、進路意識の高揚を図るとともに、より現実的な志望校決定の機会とする。			A			
進路講演会を計画。文化祭終了・部活動引退の時期(6月中旬)に、「高校生から受験生へ」の意識付けとしての講演会を行う。			A			
小論文指導の実施。計画的に小論文の書き方を指導する事により、物事に対しての自分の考えを整理し、論述する事ができるようにする。			B			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

